

エディトリアル

市立恵那病院 内科部長 山田誠史

特集

臨床研究と聞いてまず思い浮かべるのは、高度先進医療機関や大規模病院などが中心となるものであり、多くの人やお金を使わないと形にならないといったイメージだろうか。確かにそういった研究は数多くあり、治療のエビデンスについては大規模研究が不可欠といった面もある。ただ、ひと口に臨床研究といっても、ランダム化比較試験やコホート研究といった縦断研究もあれば、横断研究、また質的研究といったものなどさまざまである。地域の現場では症例数が少なかったり、特殊な症例は精査、加療のために後方病院に紹介することが多いため、症例報告をはじめとした学会発表や論文作成などは難しく、まして臨床研究なんてとてもできないと思っている人は少なくないと思われる。確かに特殊な症例についての報告はなかなかできないが、一般的な疾患であっても（むしろ一般的な疾患ほど）意外と研究がなされていないことも事実である。また人数が少なく、人の移動が少ないことは同じ方を長期に観察することが可能になったり、対象者の悉皆性なども有利に働くと考えられる。また、例えば横断研究であれば地域の健康状態を把握するために役立つし、多くの地域で協力することで、地域でしか得られない新たな知見の発見につながるかもしれない。実際に地域から発信された素晴らしい研究も数多くある。そこで今回は地域で臨床研究を行うための手助けとなるべく本特集を企画した。

小林大介論文は総論として、臨床研究の概要と研究構想のポイントについて記述されている。限られた紙面の中で、臨床研究の分類から研究仮説の定式化、統計学的な問題に関して分かりやすく述べられている。

竹島太郎論文は地域医療研究ネットワークについての総論的な記述である。プライマリ・ケア診療におけるさまざまな疑問に対して解決の糸口を見つけるためには、多職種連携をはじめとして、こういったネットワークを利用することは極めて有用かつ、不可欠であろう。

石川鎮清論文はJMSコホート研究の概要と成果についての記述である。本研究については読者の皆さんもご存じと思うが、北は岩手県から南は福岡県まで全国にわたる循環器疾患の発症についてのコホート研究である。本研究はもちろん地域のみで可能なものではないが、地域のデータが日本、さらには世界にまで発信されているという面で素晴らしいことだと思う。

廣瀬英生論文は地域で実践されている、地域医療研究ネットワークに関する記述である。これまでの研究内容から問題点についてなどプラクティカルに記述されている。

星出 聡論文は地域医療循環器先端研究開発センターについてであるが、地域にいな

がらにしてアカデミックな研究に携わることができるという期待が持てる内容となっている。

松原茂樹論文は自治医科大学卒業生に対する研究推進、論文作成への支援活動であるCRSTについての記述である。地域で研究、論文作成をする上で指導や相談を受けることができるのは非常に心強い。

(慣れない)地域で診療をこなし、生活もしながら、さらに臨床研究をするということはかなり壁が高いことかと思う。ただその壁は誰かと相談したり共有することで、かなり低くなる可能性がある。それがネットワークの構築や、また地域医療をより楽しく(?)実践できることにつながるのではないだろうか。本特集がその壁を低くするための一助になることを期待したい。